

第34回あすなろ夢建築 大阪府公共建築設計コンクール 入選作品集

主催 大阪府 公益社団法人大阪府建築士会 大阪府住宅供給公社

後援 大阪府教育委員会 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

協賛 一般社団法人日本建築協会
一般社団法人大阪府建築士事務所協会
公益社団法人日本建築家協会 近畿支部 大阪地域会
一般財団法人大阪建築防災センター
一般財団法人日本建築総合試験所
一般社団法人公共建築協会
公益社団法人日本建築積算協会 関西支部
公益財団法人建築技術教育普及センター 近畿支部

「あすなろ夢建築」
大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室計画課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
TEL:06-6941-0351（代表）

テーマ 人と人をつなげる場

課題 大阪府営羽倉崎住宅の集会所

コンクール概要・総評

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、府内の建築を学ぶ高等学校生、専修学校生などから提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ 人と人をつなげる場

課題 大阪府営羽倉崎住宅の集会所

主な設計条件

- 【所在地】 泉佐野市新安松3丁目
- 【計画地面積】 約 400 m²
- 【床面積】 150m²以下
- 【構造】 木造（一部混構造可）
- 【規模】 平屋建て（地下なし、屋上利用なし）

作品受付期間

令和7年1月6日（月）～1月14日（火）

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校(工科高等学校)・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は3名以下のグループ（共同制作）での応募とします。

応募区分

- 【第1部】 工業高等学校(工科高等学校)に在籍する生徒
- 【第2部】 短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、高等職業技術専門校に在籍する学生

応募状況

- 【応募校数】 13校
- 【応募作品数】 186点（うち 第1部63点、第2部123点）
- 【応募人数】 190人（うち 第1部63点、第2部127点）

【第1部】（計5校）	
大阪府立工芸高等学校	大阪府立都島工業高等学校
堺市立堺高等学校	堺市立堺高等学校（定時制）
大阪府立西野田工科高等学校	
【第2部】（計8校）	
日本理工情報専門学校	近畿職業能力開発大学校
修成建設専門学校	大阪建設専門学校
大阪公立大学工業高等専門学校	大阪工業技術専門学校
大阪府立北大阪高等職業技術専門学校	中央工学校OSAKA



計画地



審査会

審査委員

【審査委員長】

岩田 章吾
（大阪芸術大学芸術学部建築学科教授）

【審査委員】

下村 泰彦
（大阪公立大学名誉教授）

角田 暁治
（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系教授）

阿曾 芙実
（阿曾芙実建築設計事務所）

小川 悟
（大阪府都市整備部住宅建築局住宅経営室住宅整備課長）

浅尾 宏
（大阪府都市整備部住宅建築局公共建築室長）

総 評

本年度も多くの応募をいただきました。高校生の部である第1部と専修生等の部である第2部のそれぞれから多数の応募があったことも喜ばしい限りです。本コンクールの価値が広く知られた証であると思います。今回は建替え予定の団地内に建つ集会所であり、将来の団地レイアウトなどが未定でありながら、周囲のオープンスペースについても皆さんに提案を求めるなど、取り組み方が難しい課題だったと思います。それでも、多くの方がしっかりと課題に取り組んでくれ、完成度の高い提案もあった点は大変うれしく思います。当コンクールは、実施を前提としていますので、コストや管理の面の優劣が審査に大きく影響します。しかしその反面、審査員の先生方は、若い発想による伸びしろのある案を発掘したいとも思っています。完成度が高くとも従来の集会所の形式をなぞっただけの案は入選には至りません。今回のグランプリ案は開かれた集会所という新たな可能性を提示しつつ、実施という前提において最も完成度が高い案として選ばれました。しかし、それ以外の入選作も魅力的な提案があり、新たな集会所の可能性を感じさせるものばかりでした。また大変魅力的な提案でありながら、表現の意図が分からないため、上位入選を逃した案もあり、審査員も今回、審査の難しさを実感させられました。表現方法は多少拙くとも、何を提案したいのか、何を問題としているのかを真摯に伝える努力は重要だと思いました。いずれにせよ、審査員はタイトルのとおり夢のある提案を求めています。難しいコンクールですが皆さんの一層の頑張りに期待します。最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

入選作品の購評

（グランプリ） 「共生の拠点」

集会室の角の開口やボリューム感を抑える工夫など、歩道から気軽に寄りつける雰囲気はとても良くできている。北側広場との一体感を創出する建物位置と内部配置計画が適切である。集会室小屋組の構造の合理性が欠けているが、住民活動の拠点として様々な仕掛けが提案されており、提案書としての完成度も高くグランプリにふさわしい。

（優秀作品賞） 「風通しの庭」

透視図に描かれた中庭状外部空間の印象が素晴らしい。周辺の大きな外部空間に対してこのような小さなスペースがあることで、開放感のある集会室の中にも落ち着いた居心地の良い空間を創出している。パースのように中庭に広がりをもたせ、中庭空間のポテンシャルを活かすような提案（縁側を設ける、廊下をガラスにする等）があればさらに良かった。

（佳作） 「創縁館」

北側広場や、南側の団地内主動線に配慮して、建物内の配置を考え、それに合った外構を計画している点が評価できる。明快でリアリティも高く、利用勝手のよい平面計画であり、建物周囲にめぐらされた濡縁や数瓦通路が住民の様々な活動を期待させる良案である。エントランスや廊下などの魅力的な提案や、北・西側の広場との連携の提案が欲しかった。

（佳作） 「H」

大きく建てようとせず、小さな小屋が外構と一体となって活動の場を形成しようとする点が大変魅力を感じた。コミュニティルームを突き抜け北側広場まで見通せる大胆な提案である。一方、コミュニティルーム①が②を介さないとエントランスからアプローチできないなど機能的な課題がある。

（奨励賞） 「きっかけ発掘所」

歩道側に配置された集会室は、歩道を行き交う人との交流が期待される。集会室を縁側を介して北側の広場につなげ、土間をコの字の縁側で囲むことで、住民同士の団らんの場を創出している。このような空間が、集会室周辺や敷地全体、広場などにも展開していくことができれば、さらに魅力的になっただろう。

（準グランプリ） 「To Link To Know」

三方に展開した大胆なウッドデッキが、集会室と一体として住民の活動拠点となるような提案となっており魅力的である。集会室との連続性も強く、敷地を越えた広がりや外部からの寄りつきの可能性を感じさせる案。エントランスや廊下など、建物西側部分の魅力的な空間提案や、周辺オープンスペースへの提案があればさらに良かった。

（優秀作品賞） 「環～めぐる～」

広場へとつながる道を建物内に通すコンセプトが魅力的な案。ただ、廊下が単なる通路空間になってしまっているのが惜しい。建物の位置やバランス、回避する道幅など、もう少し細やかな設計がなされればもっと可能性が広がるであろう。集会所の新しい可能性へのチャレンジとして評価したい。

（佳作） 「人と/時間と/場所の かさなり/つながり」

エントランスを南北に開き、そこにキッチンに関連付けるなど、集会室利用者以外の活動にも関われる提案は魅力的である。北側広場との連携した計画となっており、維持管理面への配慮をはかりつつ、軒下空間を確保し休憩スペースとして活用するなど、細部に工夫がみられる。東側の道路に集会所の裏側が面してしまうところが残念である。

（奨励賞） 「人類みなテレビっ子」

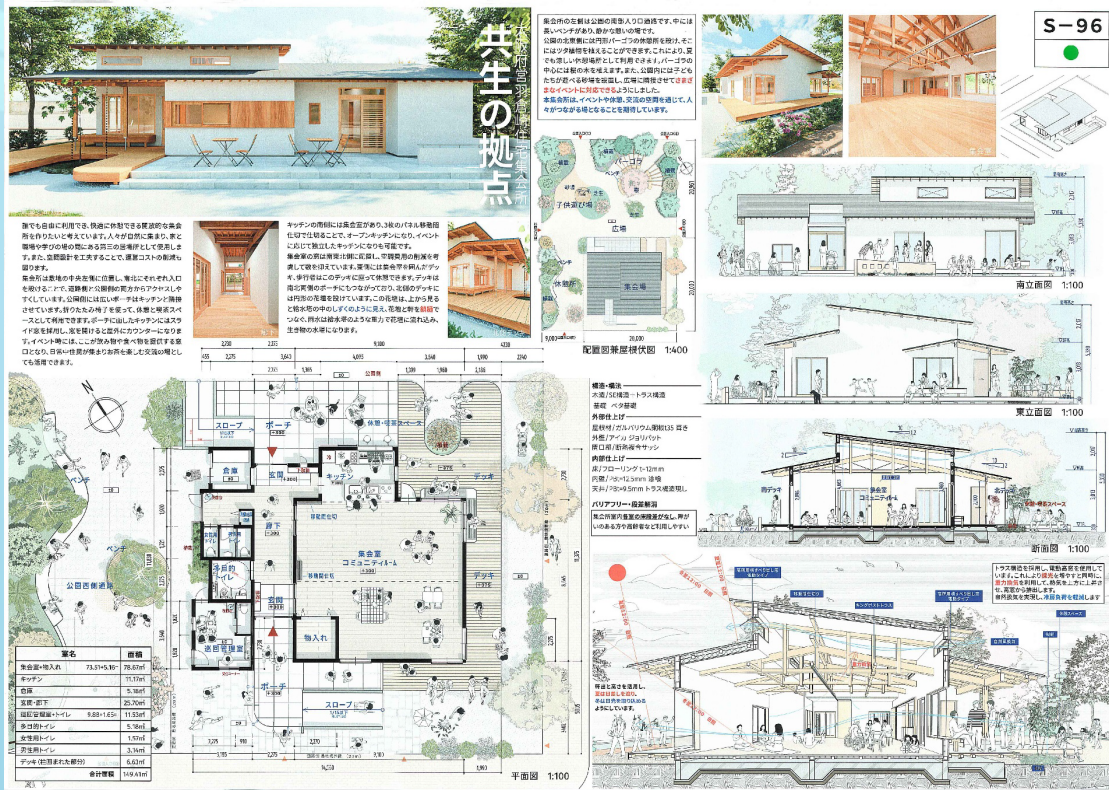
透明度の高い集会室と廊下により、南の道路と北の広場の間の視線の抜けや、集会室での活動が外部から感じられるのが大変魅力的な案。廊下前のウッドデッキや、集会室北側、西側の縁縁がどのように活用されるかなどのイメージを示し、そのような場に適切な空間提案があればさらに良かった。

（奨励賞） 「屋根からの木漏れ日」

南北のオープンスペースに開くように集会室を配し、集会室利用時にも利用者以外がトイレやキッチンを使用できるようにメインエントランスとは別に廊下を設けるなど、きわめてよく考えられた構成である。この構成を活かす空間的工夫（内外の中間領域を設ける等）があれば、さらに良かった。

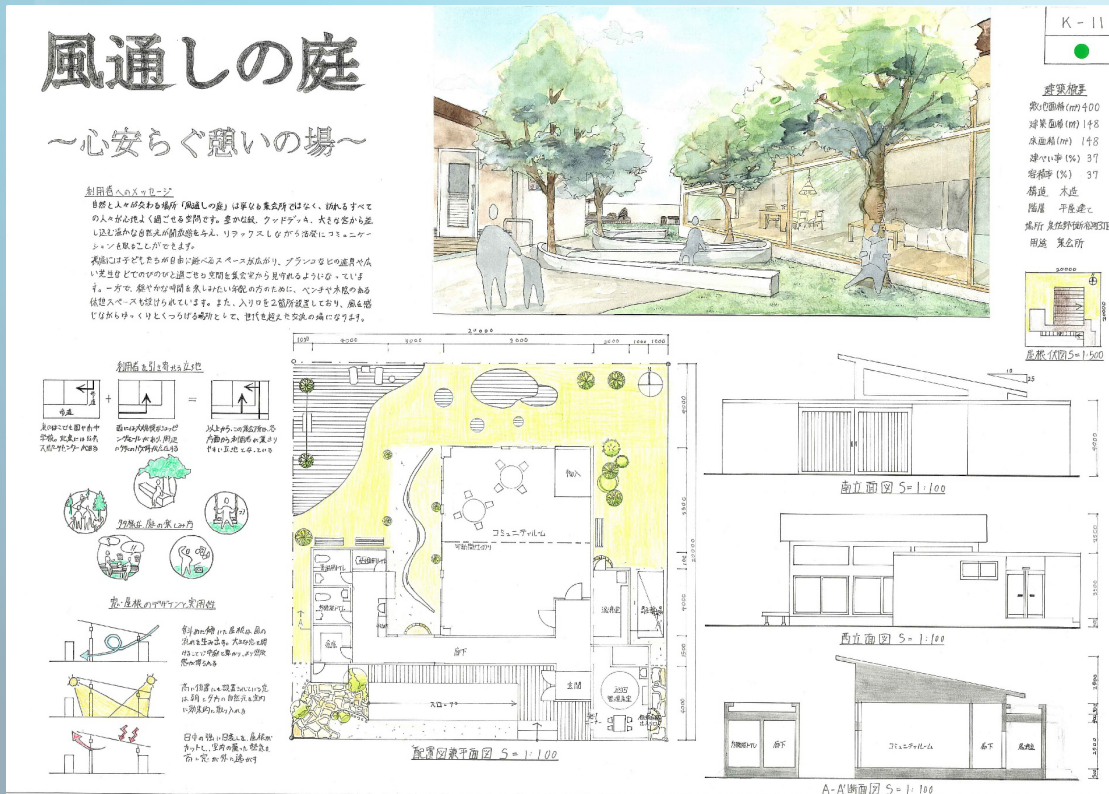
グランプリ 「共生の拠点」

り　　おうよう
李　汪洋　修成建設専門学校



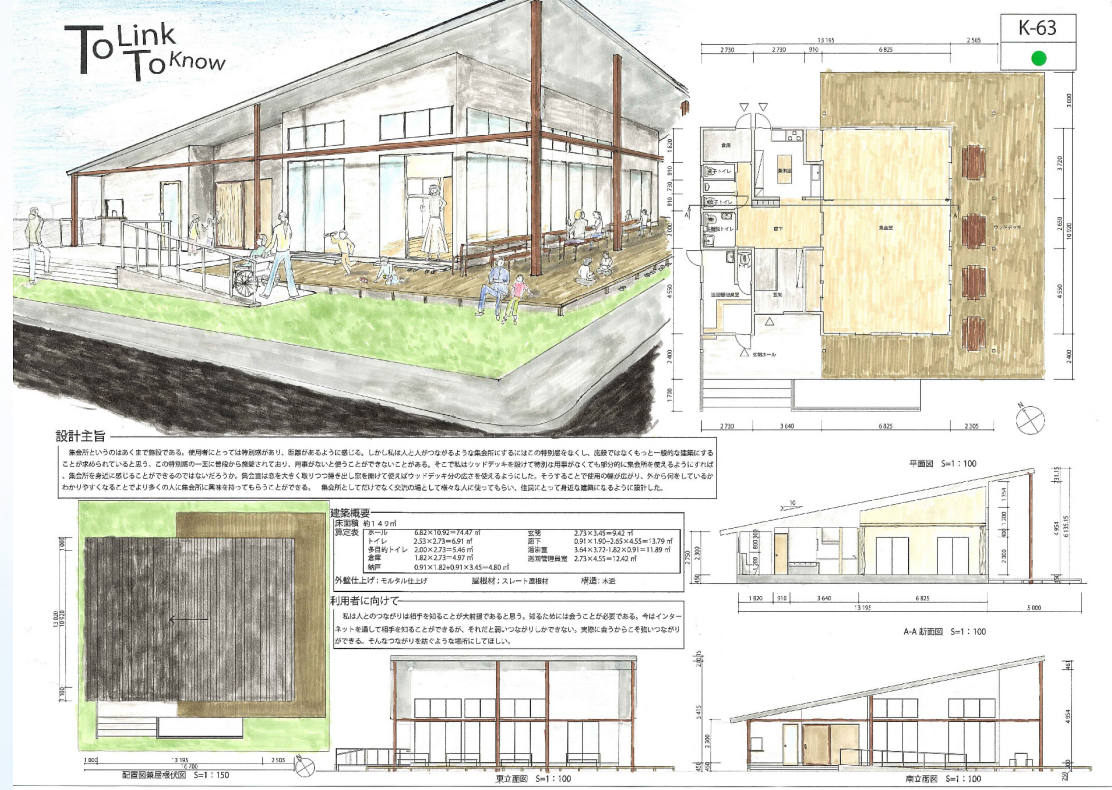
優秀作品賞 「風通しの庭」

おおしま まちこ
大島 まち子 大阪府立工芸高等学校



準グランプリ 「To Link To Know」

とみなが こうせい
富永 康生 大阪府立都島工業高等学校

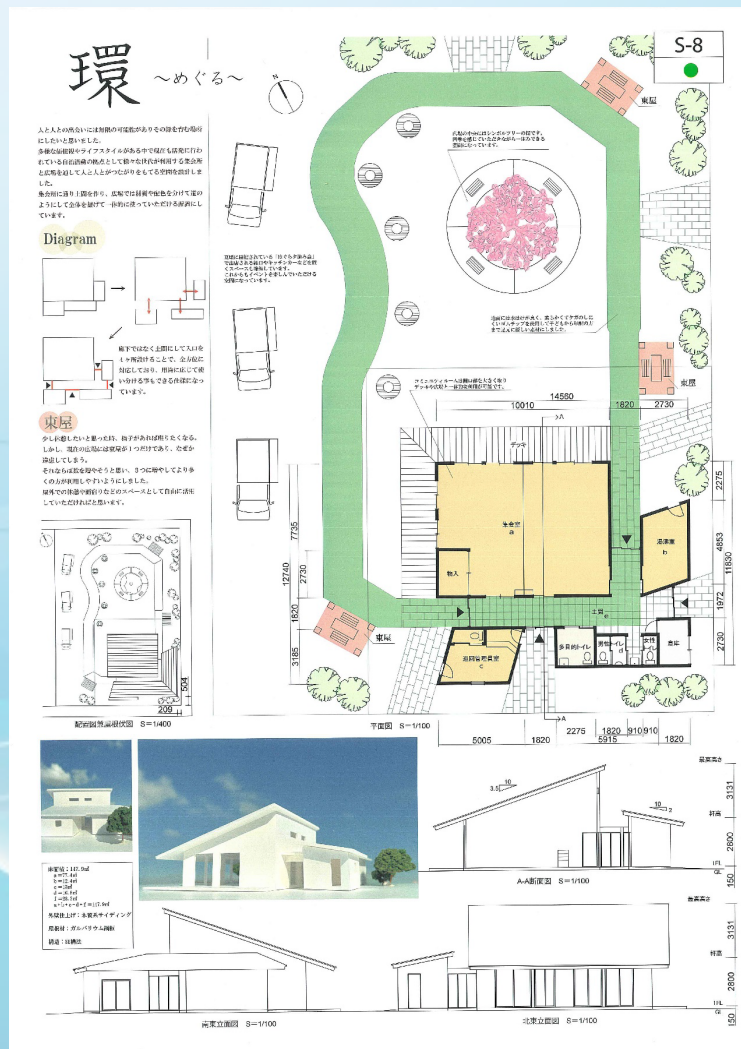


集会所というのはあくまで施設である。使用者にとっては特別感があり、距離があるように感じる。しかし私は人と人がつながるような集会所にするにはこの特別感をなくし、施設ではなくもっと一般的な建築にすることが求められていると思う。集会所としてだけでなく交流の場として様々な人に使ってもらい、住民にとって身近な建築になるように設計した。

優秀作品賞 「環～めぐる～」

かわしゅくだ ちあき
川宿田 千晶 日本理工情報専門学校

人と人との出会いには無限の可能性がありその縁を育む場所にしたいと思いました。多様な価値観やライフスタイルがある中で現在も活発に行われている自治活動の拠点として様々な世代が利用する集会所と広場を通して人と人とがつながりをもてる空間を設計しました。集会所に通り土間を作り、広場では材質や配色を分けて道のようにして全体を繋げて一体的に使っていただける配置にしています。



佳作「創縁館」

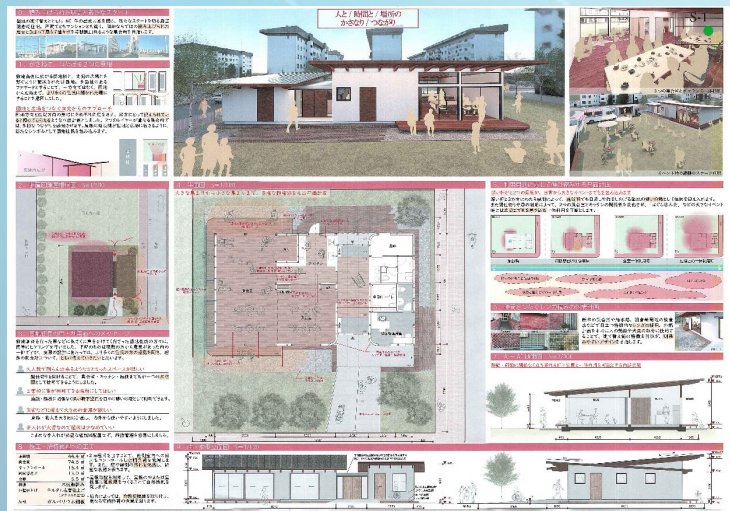
きど りょう
城戸 亮 堺市立堺高等学校（定時制）



佳作

「人と/時間と/場所の かさなり/つながり」

やまもと りくた
山本 陸太 大阪公立大学工業高等専門学校



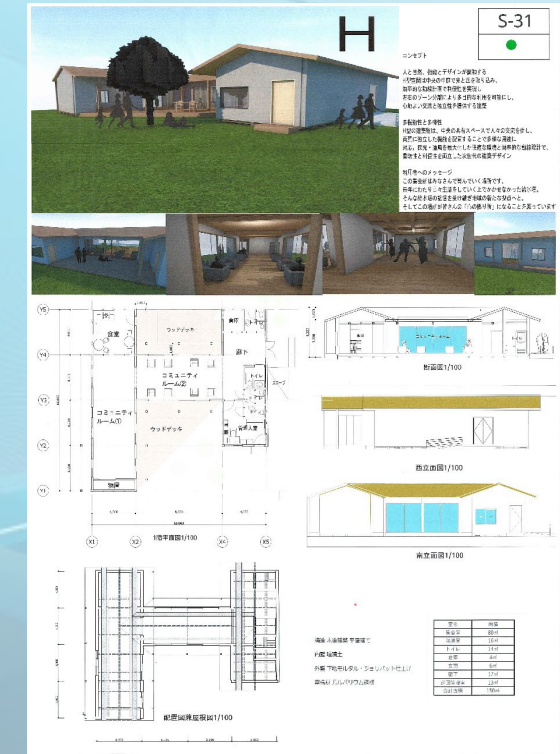
佳作「H」

やまもと はるた
山本 暖太 大阪工業技術専門学校

人と自然、機能とデザインが調和するH型空間は中央の中庭で光と風を取り込み、効率的な動線計画で利便性を実現し左右のゾーン分離により多目的な利用を可能にし、心地よい交流と独立性を提供する建築。

ガーデニングは時間も手間もかかりさらには体力も多く使います。また、たとえ多くの時間と手間をかけても、天候不順等によりその努力が実を結ばないこともあります。しかし、一度でも美しい花が咲いてしまえば、達成感や喜びにより絆が生まれます。そこで、集会所を活動の拠点とする園芸クラブを設立します。その園芸クラブが主導するガーデニングイベントでは、こどもからお年寄りまで年齢や性別に関係なく、球根を植える、肥料を撒く、水やり等の共同作業を行います。そこは、日頃互いに会話をする機会のなかった人たちへの交流の場となります。

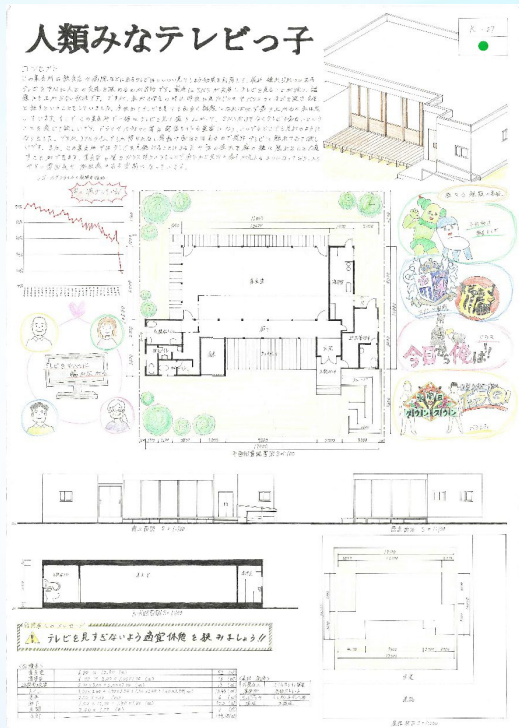
団地の建て替えとともに60年の歴史に幕を閉じ、新たなスタートを切る府宮羽倉崎住宅。戸建てともマンションとも違う、団地ならではの積み上げられた歴史と集まって暮らす豊かさを再認識できるような集会所を目指します。敷地南側に広がる団地棟と、北側の広場とを繋ぐように配置された計画地。多面性のあるファサードとすることで、一方向ではなく、団地から広場まで、より多くの住民に開かれた場にすることを意図しました。



奨励賞

「人類みなテレビっ子」

ともぞえ ちあき
塘添 千晃 大阪府立工芸高等学校

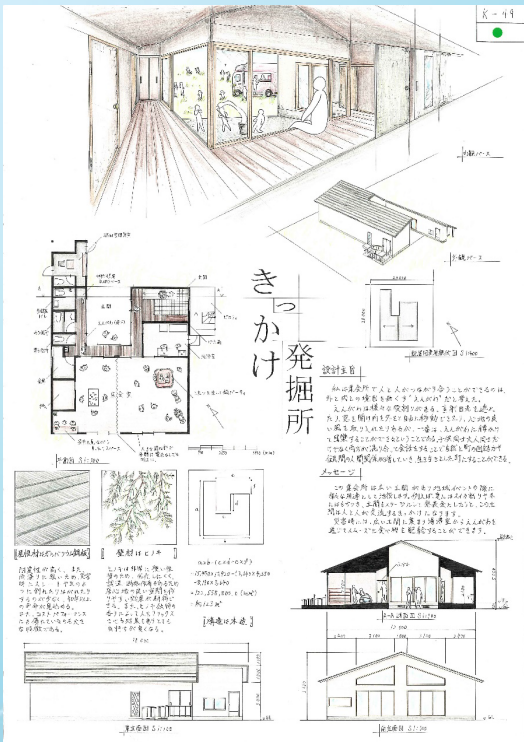


この集会所は飲食店や病院などにあるテレビはついつい見てしまう効果を利用して、最近離れられつつあるテレビを中心に人との交流を深めるのが目的です。集会室の壁をガラス張りにすることで廊下から室内の様子が見れるようになっており、入りやすい雰囲気で解放感のある空間になっています。

奨励賞

「きっかけ発掘所」

なかしま もとき
中島 幹己 大阪府立都島工業高等学校



現在、給水塔の足元にはたくさんの花が植えられていて自然と交流が生まれる場となっており、集会所となっても自然と交流の生まれる場所として人々に長く愛され利用してもらえる集会所を考案した。葉が重なったような屋根から木漏れ日のように光が差すことで集会室・エントランス・管理員室・廊下・洗面所が柔らかく照らされるようにした。

奨励賞

「屋根からの木漏れ日」

あらさき たくと
荒木 拓人 修成建設専門学校

